

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	総務部人権推進課	令和3年度
記入団体名	『テレジン収容所の若い画家たち展』実行委員会	
予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>

協働事業名称	テレジン収容所の若い画家たち展	
協働事業の概要	<p>令和3年度の事業については、令和元年度に実施した「テレジン収容所の若い画家たち展」と「歌と朗読のコンサート」に加え、「絵画のワークショップ」を実施した。</p> <p>◆展示（9/8～9/16）＝第二次世界大戦当時テレジン収容所に囚われていた10歳から15歳の子どもたちが描いた106点の絵と特別展示としてアウシュヴィッツの24時間の生活を描いたポーランドの画家ヤン・コムスキーの作品28点初公開。</p> <p>◆ワークショップ（9/11）＝子どもたちの絵の指導をした「フリードル先生の絵の時間」の追体験をアートセラピストのシェリル大久保先生をお招きして行う。</p> <p>◆テレジンコンサート（9/12）＝歌と語りのコンサート「テレジン もう蝶々はいない」ウイスタ川越小ホールにて上演。</p>	
協働事業の決算額	160,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和3年9月8日 ～ 令和3年9月16日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑦

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評価点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	33 点
------	------



【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今回は、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を講じながらの事業実施となりました。事業期間は緊急事態宣言中でしたが、絵の展示会、歌と朗読のコンサート、そして今年度の新しい企画である絵のワークショップとも、多くのお客様が足を運んでくださいました。事業に対する感想としては、コロナ禍で集客型イベントを実施することの難しさを感じました。

実行委員会としては、「テレジンの絵を描いた子どもたちと同世代の小中学生に、ぜひ見に来てほしい」という思いが強かったようですが、市内でも連日多数の感染者が出ている中、小中学校への訪問等による啓発もままならず、小中学生の来場は思うように伸びませんでした。

ただ、全体としては、アンケート結果からも、命の尊さや生きることの喜び、そして平和の大切さを改めて感じる事ができた等の回答が多く、人権思想の普及高揚に大きく貢献する事業であったように感じています。

【市民活動団体等】

令和3年度2021年9月8日～16日、コロナ禍の中でしたが、人権推進課とご相談しながら第2回目の「テレジン収容所の幼い画家たち展」の実施を決定いたしました。会場が市立美術館・市民ギャラリーでしたので美術館としての感染拡大防止のための制限もあり、当初の計画通りというわけにはいかないこともありました。人権推進課と美術館のご尽力で無事に搬入の7日から10日間という長期間感染者を出さず事業を終えることができました。コロナ禍での来場者はきっと少ないだろうとの予想をはるかに超えて延べ1400人もの方が足を運んでくださり沢山の感想を残してくださいました。後日ワークショップに参加した生徒の方から『シェリル先生に絵を見てもらい、緊張したけど充実した時間を過ごすことができました』と葉書を頂戴しテレジン収容所の中でもきっと沢山の子どもたちがフリードル先生から優しい明日への希望の言葉を受け取っていたのではないかと初めてのワークショップの大きな成果を感じました。まわりの大人は子どもたちにとんぷうに接したらいいか・一つのヒントになったのではないと思いました。子どもたちばかりではなく付き添っていらした大人の方達も思わず作品作りに参加され夢中になって楽しんでいました。コンサートは、会場がウエスタ川越と離れていたため両方一度に見たいという方には、移動が大変だったと思いますがアートホールより大勢の方に聴いていただけました。「テレジンを語りつぐ会」の活動30年目の記念の年に川越在住の野村路子さんと共に、今回も川越市のお力を借りて協働事業として実施できましたこと心から感謝しております。次回は、2023年に第3回「テレジン収容所の幼い画家たち展」を開催をしたいと願っておりますのでご指導よろしくお願いたします。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		総合評価
A	7名	A
B	3名	
C		
D		

【事業に関するコメント】

・コロナの中で気づきも大変であったと思う。ただ、協働事業にも市民が歴史的な事実を理解し、考え方を共有する機会とな事業も必要だと考える。

・人権とは何か？戦争とは何か？を考える大変良い企画です。

協働事業名称 テレジン収容所の若い画家たち展

【事業に関するコメント】

・参加者も多く、感想文も良い。パンフレットも早く配布しており、良かった。目標を達成している。コンサートは大変良かった。子供を増やす為、教育委員会だのみでなく工夫して欲しい。

・市内参加者209名に対し、市外参加者256名と市外参加者が多くなっている。告知の仕方に問題はなかったのでしょうか。アンケート集計上で見えてこない、アンケートの取り方に工夫が必要ではないでしょうか。

・しっかりした着実な活動をしていただき、大いに評価出来ると思います。皆様のアンケート内容を見るとしっかりと受けとめられ、良いエネルギーを感じます。一方、市としては事業支援だけで良いのか？と感じます。市としての方針が大きく打ち出され、柱として市民に自覚されればもっと良い成果となると思います。

・「テレジン収容所の若い画家たち展」は戦争の悲惨さを知らない子供達に伝え命の尊さ、生きる喜びを平和の大切さを感じる機会になったと思います。

・このコロナ禍にもかかわらず、多くの参加者があり、新たに企画したワークショップにも新たな発見があったりと、当初の目的を十二分に発揮された事は喜ばしいことです。ただ、そのような中で、小中学生の参加が少なかったようですね。是非参加できる工夫を模索してください。期待しています。

・行政との「協働」として、どのような役割分担をしていくのか。さらに考えていただきたいと思います。

・内容と団体の活動は素晴らしい。テレビ新聞各紙で紹介されていた。野村路子さんという各メディアが注目する方の存在を、行政が活かされてない。人権推進課のより広範な事業としての可能性を期待する。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	市民課	令和3年度
記入団体名	原発避難者と歩む@川越	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	原発避難者と共に地域共生推進事業～防災を考える～	
協働事業の概要	<p>東日本大震災から10年。元双葉郡消防士・渡邊敏行氏を招いて、当時の被災状況と消防活動について講演いただき、今後の災害に対応できる連帯体制づくりや一人ひとりの心構えを共有する機会とする。</p> <p>日時：令和3年8月29日（日）14：00～</p> <p>参加費：500円（原発事故避難者は無料）</p> <p>会場：ウェスタ川越2階リハーサル室</p> <p>内容：「3.11原発事故、その時現場では…」～知られざる双葉郡消防士の極限の活動～</p> <p>講演会 「福島は今」元双葉郡消防士 渡邊敏行氏 対談 渡邊敏行氏と吉田千亜氏との対談</p>	
協働事業の決算額	71,000円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	2021年 4月 16日 ～2021年 9月 9日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑦

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	3	2	2.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	3	3	3
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	3	3.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	3	3.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	3	2	2.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	4	4

合計点数	23 点
------	------



【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

- 新型コロナウイルス対策として、
- ・ イベントの参加申し込みをQRコードからオンラインで受け付ける。
 - ・ 講演会等事業内容はZoomを使用しオンライン配信で視聴できる。
 - ・ 講師の渡邊敏行氏は講演会をサテライト（オンライン）で行う。
 - ・ 会場の定員数の半分以下に入場者を抑える。
- などの工夫を行ったうえでの開催となりました。

イベントで避難当事者や地元消防士や取材者の話を直接聞くことで、共感が広がり、地域共生の橋渡しになったと思います。また、日頃の防災・減災意識の向上にも役立ったと感じました。

【市民活動団体等】

昨年度は新型コロナウイルスの影響で協働事業に応募することを断念し、今年度こそ感染者が少なくなるだろうと期待して会場の予約等の準備を進めてきたが、日を追うごとに感染者が増え、開催するかどうか躊躇する状況だった。
 福島県から講師を招くことが無理ならZOOMで講演をしてもらおうと決めてからはその準備と対応が尋常じゃない大変さだった。
 避難者の参加がほとんどなくコロナ禍に右往左往された今回だったが、それでも開催の意義を感じた。
 昨年度は開催断念、今年度はZOOM採用に至ったが、このような状況が続くとしたら講演会や集会をどう開催すればよいかを考えさせられた事業であった。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A		当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価 C
B	4名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	6名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・ ZOOMでの講演、コロナ禍で大変に御苦勞様でした。あれから10年、防災意識を高める為、頑張ってください、ご苦勞様でした。
- ・ 団体自身の自己評価、そして行政の評価もいずれも低い。コロナが障害であったという団体の言い分であるが、もう少し工夫もできたのでは。

協働事業名称

原発避難者と共に地域共生推進事業～防災を考える～

【事業に関するコメント】

・ 原発事故に携わった消防士の話聞いたのは良かったと思います。防災減災については自助・共助・公助の順であることを皆が認識しなければならない。行政は個人情報については厳密にしなければならず、原発事故避難者に対して行政から案内文を出すのは無理であると思う。

・ 評価がお互いに低いのはなぜか。市内の避難者とつながりたかったが、なかなかできなかったというのは残念であった。元々目的が違っていたのか？

・ 民間でやろうとしていることと異なるということが分かっているなぜ事業を行うのか。しかも継続して、というところが理解できなかった。

・ 地域共生という難しいテーマでの活動で、達成の難しさを感じます。更に防災を考える...これも難しいテーマで、これらの事業に対しどうであったかを考えるべきと感じます。共生という事に対し、市としても共感だけでなくどういう行動をするべきか、指針が欲しいと思います。

・ 原爆のおそろしさを伝えていく事は大切だと思います。今でも広島、長崎の被爆者の方が苦しんでおられる事を決して忘れてはならないと考えます。

・ 評価シートをみると、協働事業を展開する以前の問題として、団体側は市内在住の原発避難者に極力参加してもらいたいという意識が強く感じられました。それに対して行政側の対応が不十分で民間団体側には評価が低いものとなっていると感じた。来年度、協働事業として実施したいのであれば、この点を解決する事が前提になると考える。

・ 協働事業は何よりもまず、お互いの立場を尊重しあうことにあると思います。今後こういった事業を進めていくためには、この点を理解する必要があると感じます。

・ コロナ禍でオンラインでの講演にきりかえるなど様々な工夫をしていた。SGDSの「だれ一人とりこぼさない社会づくり」を象徴する事業として、川越市民としてとても誇りに思っていた事業だった。団体の協働の評価点の低さに委員としてショックを受けた。協働になにか問題があったのか気になる。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	産業観光部 農政課
記入団体名	川越サツマイモ商品振興会

令和3年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
--

協働事業名称	川越いも作り270周年記念事業		
協働事業の概要	2021年が、川越いも作り270周年の記念年にあたるため、その川越の産業的価値を後世および一般市民に伝えるため、市民向けのセミナーやPR活動、および記念冊子の発行を計画した。市民向けセミナーやPR活動は予定通り、実施できたが、記念冊子の編集発行作業は、計画通りに進まず、発刊は6月頃に延びる予定である。		
協働事業の決算額	19,000	円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	2021年10月～12月		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑦

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	3	3.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	3	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	3	3.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	3	4
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	3	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	3	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	3	4

合計点数	27 点
------	------



【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

川越といえば、サツマイモのイメージが定着しているが、実際には生産農家の数はそれほど多くはない。また、伝統的な川越いもである「紅赤」に関しては、現状2名しか生産していない。

川越いもの文化を振興し、後世に残すためには、このようなイベントを継続的に実施していく必要があると考えられる。

【市民活動団体等】

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、思うように計画通りに事業を推進することができなかった。コロナの流行の推移をみつつ、今後も記念誌等の編集取材活動をすすめ、川越いもの270年の歴史文化を早急にまとめ、川越の魅力ある歴史財産の情報として残し、今後の川越の産業観光振興の一助となればと考える。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		総合評価
A		B
B	7名 ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	3名 当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		
		当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。
		協働事業としてうまく機能しなかった。

【事業に関するコメント】

- 種々工夫して継続して頂きたい。

- 実施団体と行政の自己評価の差が大きい。特に実施団体の事業内容の評価が低い。次年度に向けてはその原因を評価、分析してより双方の満足度の高い事業にして欲しい。

協働事業名称	川越いも作り270周年記念事業
--------	-----------------

【事業に関するコメント】

- 農業振興のためにも記念冊子の発行を楽しみに待っています。サツマイモの事だけでこれだけ語れるのはすごいことだと思います。
- 評価に差があるのはなぜか。残念。元々、難しい取り組みだったのか？テキスト作成に期待する。
- 行政の評点と団体の評点のかい離が大きすぎるのではないか。そもそも「川越いも」という題材は川越だけで調査が終わらないことは270年の歴史上、分かっていたことではないか。事業の計画自体には問題があったのではないか。
- 川越観光といも商品は切っても切れないものとなっています。今後も引き続きPRお願いします。その意味でもイモ供養や献芋式や市など観光とからんで年中行事として定着して盛り上げていける様考えます。
- 川越地方の伝統作物である「紅赤」を市民にもっと広げていただきたい。
- 「川越いも」の文化は歴史あるものである、かつ、川越の代名詞の1つである。未完の記録誌等の編集を早急に行うと共に、イベント等を継続的に実施される事を望みます。1つ気になったのは団体側の評価点がすべて「3」であった。偶然の結果なのだろうか？
- 事業の内容はユニークなものであったと言えるが、行政はもう少し積極的に関与する余地はなかったのか。再度検討してもらいたい。一方で団体側はスケジュールや企画に無理はなかったのかを見直す必要があるように思う。
- 市民セミナーは市民の関心も高いと思う。冊子の完成に期待する。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	文化芸術振興課
記入団体名	小江戸川越「大地の園」の会

令和3年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
--

協働事業名称	「大地の園」（打木村治）から100年前の川越を学ぶ事業	
協働事業の概要	<p>川越市は、2022年に川越市制100周年を迎える。100年前の川越を描いた打木村治の自伝的長編小説「大地の園」を市民の皆様にご覧いただく。</p> <p>1. 「大地の園」（全4巻）を普及させるため、川越市内の高等学校へ配布する。 2. 「大地の園」に登場する石川組製糸、発智庄平及び100年前の川越等に関する講演会、展示会・障害のある子どもの絵画展・コンサートの開催 3. 「大地の園」にゆかりのある川越の町歩き</p>	
協働事業の決算額	129,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和3年4月～令和4年1月	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑦

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評価点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	3	3.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	3	3	3
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	4	3.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	3	3	3
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	3	3
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	4	3.5

合計点数	23.5 点
------	--------



【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今年度は事業2年目でコンサートや町歩きなどのイベントも実施することが出来、担当者としても団体の活動を直接知ることができました。団体は川越の歴史文化の普及だけでなく、障害のある子どもの活動のサポートもしている温かさの感じられる団体で、その活動内容は意義深いものがあります。

団体の活動が広まることは本市の周知にも繋がります。今後の発展を期待します。

【市民活動団体等】

小江戸川越「大地の園」の会は発足時より、川越市の魅力を全国に発信することに少しでも寄与出来たらと願い、活動をしてきました。今年度、2度目の協働事業に参画しましたが、相当程度の成果を挙げることができたと思自負している。令和4年度は100周年記念事業に参加し「小江戸川越」の魅力を発信したいと思っております。そのため、協働事業は次年度、応募を予定しています。最後に文化芸術振興課の皆様のご適切なご指導に感謝しております。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	3名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	7名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	
総合評価			

【事業に関するコメント】

・目的、そして内容とも興味深い事業であるが、双方（団体及び行政）の自己評価がやや低いのはなぜか。よりよいものにして欲しい。

・コロナ禍の中、つどいやまちウォークが出来たことは良かったと思います。川越市の魅力を全国に発信するには映画化やアニメ化は必要だと思いますのでお願い致します。また、今の川越を題材にした小説もありますので参考にされたいかがででしょうか。

協働事業名称 「大地の園」（打木村治）から100年前の川越を学ぶ事業

【事業に関するコメント】

- 行政の結果と市民の結果にくい違い。第1回目のコンサートはできた。第2回目のコンサートは中止。
- 担当課と団体でよく話し合いして、より広範囲の方へのアクセスをされてはいかがでしょうか。
- 本年度は中止とあるが、ほぼ計画は達成と思います。色々な切り口で活動しておられ、川越ローカルに根付いた活動となっていると思います。
- 100年前の川越を描いた打木村治氏の自伝的長編小説を市民に伝える事は大変有意義な事と考えます。著書の中の家族・親戚・友達・地域間の愛について、市民に伝える事ができるよう活動を続けて欲しいと思います。
- 今後も題材の本に出てくる場面をとらえながら関連ある諸団体とコラボし、川越のよさを市民、特に若者に周知させる活動を期待します。小中高校に配布された本の活用状況の報告も知りたいところです。（例えば利用状況、読后感想など）
- 一部事業が実施できなかったことは確かに残念ではあったが、団体として様々な工夫をしていたことはうかがえました。行政の側においては他にも何らかの形でバックアップすることを考えてもいいのかなと考えます。
- 本の学校配付で終わりにならないようにという昨年の委員会の提案をきちんと実行されて、県立高校からの感想文を紹介されていた。100年まえの学生同士がつながることは素晴らしい。川越の郷土愛を育む素材として今後もこの作品の発信を行ってほしい。障害をもつ若者支援も自然な形で行われている事を評価したい。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	文化スポーツ部 国際文化交流課
記入団体名	NPO法人日本語教育ネットワーク

令和3年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
--

協働事業名称	日本語ボランティア育成講座	
協働事業の概要	<p>外国籍市民を対象とする地域の日本語教室において、日本語を教えるボランティアとして活躍できる人材を育成するために「日本語ボランティア育成講座（全10回）」を開催する。</p> <p>川越市の外国籍住民の現状の共有、日本語講師に必要な基礎知識等の講義とともに外国籍のモデルチューデントに対し模擬授業を行った。</p> <p>【開催場所】 クラッセ川越5階国際交流センター</p> <p>【日 程】 9月1日、8日、15日、22日、29日 10月6日、13日、20日、27日、11月10日、</p> <p>【時 間】 午後6時～8時</p> <p>【受講人数】 10名（応募者多数の場合は抽選）</p>	
協働事業の決算額	157,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和3年9月1日（水）～11月10日（水）＋講座後NPOでの実習	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑤

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	4	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	33.5 点
------	--------



【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を強く意識しながらの実施となりました。開催前の8月は感染者数も大変多く、実施にあたってはNPO法人日本語教育ネットワークの担当者と綿密に打ち合わせを行いました。8月1日号の広報かわごえにて受講生を募集したところ、このような状況下にもかかわらず19名の応募がありました。

コロナの影響を受けながらも無事に10回の講座を終えることができほっとしています。外国籍市民の数は増え続けているので、地域における日本語教室の需要はさらに増していくものと思われます。日本語指導にあたるボランティアの育成については引き続き支援していきたいと考えています。

【市民活動団体等】

緊急事態宣言が明けて直ぐの9月講座開始でコロナ対策に大変緊張した。講座第2回までは受講生の一人からの要望で川越市のwebシステムを使用して講義を中継した。3回目からは実参加となったが、今回のことでwebでの講義の可能性も探れた。講座の5回までは四技能他の座学、後半は当NPOで学習している外国籍のモデルチューデントに対して模擬授業を行った。限られた時間の中ではあったが、受講生は自然と日本語学習とは？日本語の講師の役割とは？ということが感じとれたと思う。また、講座終了後に当NPOで実際に活動することで新たな視点も生まれ学習者のニーズ対応の面など大変に助かっている。当NPOとしても日本語学習というツールで多文化交流ができ、地域住民との共生につながっていく可能性を感じた。これからは地域の外国籍住民と信頼関係を結び共に地域の課題解決、活性化につなげていきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		総合評価
A	7名	A
B	3名	
C		
D		

【事業に関するコメント】

• それなりの社会ニーズに合わせて、団体ができる範囲で事業を実施していると思う。今後もコツコツ頑張りたい。

• コロナ禍の中での授業がWeb等を使用したりしながら10回の講座は大変だったと思います。このような社会状況の中、孤立化している外国籍市民が多くいます。色々と連携しながら孤立化を防ぐようお願いします。対象年齢は何歳位を想定しているでしょうか。

協働事業名称 日本語ボランティア育成講座

【事業に関するコメント】

- 10回もの長い講座に95%受講したのは素晴らしい。もっと制度化できるか。
- 事業規模としてもう少し拡大すべきではないか。9000名程度の外国籍の方全員のサポート。潜在的流入者も含めるともっと必要ではないでしょうか。
- 2年の活動で少人数の受講者ながら確実な進歩が感じられました（成果）。目的のボランティア育成に対し。講座終了後、ボランティア活動をする人が出てきた事が大きいと思います。
- 川越市にも世界の国々から多くの方が住んでおられ、大変言葉に不自由されていると聞いています。地域住民と外国籍住民と信頼関係を結ぶ事が出来るよう日本語教育を進めていただきたい。
- この種の事業の需要は今後も見込められると思われるので、今までつちかった知見、ノウハウを十二分に活用して、ますます活躍される事を期待します。
- 難しい課題に対し、うまく取り組んでいると思います。一つ指摘するならば、行政の関与できる範囲について、お互いに話し合いを進めていただく必要があると感じました。もっと大きな可能性のある事業だと思しますので、引き続き頑張ってくださいと思います。
- 行政も外国籍市民の増加の課題を認識し団体との協働の意義をきちんと把握しており、上手く協働できている。受講率の高さや受講生のつながり、7割がボランティアとして活動することなど素晴らしい。多文化共生へ対する市民の意識啓発は今後も行政の課題なので、部署の縦割りに拘わらず行政は、市民団体とうまく協働してほしい。